

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会 新札幌パウロ病院		
事業所名	グループホーム夏桜		
所在地	〒004-0021 札幌市厚別区青葉町16丁目728番地12 (電話) 011-892-4111		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年9月18日	評価確定日	平成21年10月20日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年10月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	18,300~22,300円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,140円	

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2		12名	
要介護3	4名	要介護4		0名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 85.3歳	最低	78歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌パウロ病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑多い住宅街に立地する当事業所は、利用者がここでの生活になじみやすいように、木の温もりを重視して造られており、居間からの眺めも開放的で、落ち着いた雰囲気である。利用者の尊厳を重視した事業所を目指し、管理者、職員は理念を共有しながら利用者のペースを尊重した、質の高い介護支援を行っている。運営母体が医療法人であり、近隣に位置しているため、医療面での連携は行き届き、利用者、家族の安心に繋がっている。開設時より地域とは活発に交流が図られ、事業所と地域住民との双方向関係は大変良好で、地域に根ざした暮らしが、様々な取り組みにより確保されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で出た改善課題は、全体のカンファレンスで話し合い、検討し、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員による取り組みを実施している。スタッフルームに自己評価表を置き、各職員が記入した内容をユニットの代表者がまとめている。自己評価及び外部評価で出された課題は、事業所の運営とサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的に開催しており、事業所での生活状況、行事の案内、ボランティアや実習生の受け入れ、自己評価、外部評価の結果などの報告を行っている。また、地域住民や家族から出された意見、要望、質問、依頼等についても、率直な意見交換を行い、サービスの質の確保や運営に反映している。前回の会議では、実習生の受け入れや、小規模多機能居宅介護サービスについての説明などを行った。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月発行する便りで、利用者の暮らしぶりや行事などの報告を細かく家族に知らせている。家族の来訪も多く、その都度、職員は家族の意見、要望、心配事に耳を傾け、個々の希望に沿えるよう事業所全体で積極的に取り組み、事業所の運営に反映している。気軽に話せる雰囲気づくりをしているが、家族からの事業所に対する苦情は現在までない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所として町内会に加入し、地域活動や町内清掃、ピアノコンサート、茶話会、盆踊り等の行事に積極的に参加している。また、地域住民がボランティアとして食事の支度、傾聴、外出時の援助等で定期的に事業所を訪問する等、事業所と地域住民との交流は日常的に活発で、利用者全員の生活の質の向上に繋がっており、地域に根ざした開かれた事業所となっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の一員として暮らせるよう、その関係性を重視した、事業所独自の基本理念をつくりあげている。また、理念に基づく、基本方針を心得として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすい場所に掲示し、カンファレンス時での唱和、理念カードの携行など、日々理念の意識付けを行っている。理念に沿った五つの基本方針が、日々のサービス提供場面に反映されるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より町内会に加入し、地域の行事や祭り、ピアノコンサート、茶話会などへ積極的に参加している。日常的に外出も多く、散歩時に近隣住民と親しく挨拶や声かけを行っている。定期的に地域ボランティアの訪問などもあり、地元の人達との積極的交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者及び職員は、評価の意義を理解し、各ユニットごとに自己評価に取り組み、ユニット会議等での共有を図っている。また、前回の外部評価で出された課題については速やかに協議し、職員で合議の上で改善に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一度、定期的開催している。地域役員、包括支援センター職員、利用者や家族の代表などが出席し、事業所の現状や活動報告、地域からの提案事項などを話し合っている。利用者の豊かな生活に結びつく取り組みについて協議し、サービス向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他、管理者会議や事業所集団指導時などを通し、案件等について意見を仰ぎ、連携を取りながら共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「夏桜お便り」を発行し、利用者の暮らしぶりや、行事などを報告をしている。日常の様子や介護状況、預かり金などは、個々に合わせて細やかな報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や運営推進会議の場で、家族から意見、要望、苦情などを聞き、出された内容は記録に残し、即時対応に努め、運営に反映させている。重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口を記載してある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の開設から約4年になるが、職員の離職、異動は3回のみで、利用者や家族とのなじみの関係は強く信頼も厚い。異動や離職がある場合は、利用者、家族に報告、説明を行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は、職員育成の重要性を認識し、内部研修はもちろん、計画的に外部研修にも参加できる体制も整えている。研修計画を基に、段階に応じた研修受講の機会を提供し、研修後は会議などで報告を行い、共有化を図っている。研修報告書は事業所内部のみならず、法人にも提出し、組織全体での質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所の見学、研修はもとより、管理者会議やケアマネ連絡会に参加することにより、職員育成やサービスの質の向上に努めている。他法人の事業所との交流は、前向きな姿勢で取り組んでいるが、事業所の運営やケアサービスに活かすまでの相互交流には至っていない。	○	同法人内での相互研修や交流は実践している。今後、他法人との職員研修、事例検討等、交流や連携に取り組み、他を知る事による自己サービスの気づきに発展する事を期待したい。また、事業所の成功例等を多くの同業者に発信し、相互評価を交えた研鑽に期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前、本人、家族による見学を行い、利用者と一緒に過ごす機会を設け、事業所の雰囲気になじめるよう、家族等と相談しながら工夫している。職員は、利用開始間もない利用者の思いや不安を受け止め、安心感が得られるよう、関係作りの充実に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、支援する側、支援される側という意識を持たず、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、ケアサービスを提供している。利用者の生活歴を振り返り、調理や生け花等、できる事、得意な事を見出し共に学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>絵</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者の生活歴や日々の会話、表情などからその真意を推し測り把握に努めている。意思疎通が難しい利用者は、生活歴や見守りの中からの気づきを基に、家族等と共に話し合いながら、希望に沿うよう検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者担当制を行っており、職員は利用者、家族との話し合いの中から希望や意見、要望などを聞き介護計画に反映するよう努めている。職員全員で、利用者全員のカンファレンスを行い、情報の共有を図っている。モニタリングを実施する時、家族が参加する機会もある。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の申し送りの中で、利用者の状況を確認し、介護計画が実行されているか話し合っている。介護計画の見直しは3ヶ月に一度定期的に行い、利用者の状況に変化が認められた場合はその都度見直し、利用者、家族と共に現状に即した介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>運営母体である医療機関と連携を図り、利用者、家族の状況に応じて、行事参加、外出、通院送迎など、必要な支援に柔軟に対応している。また、同法人開設の事業所間との連携により、サービスの質の向上にも努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、提携医療機関から訪問診療を受けている。また、週1回訪問看護も利用し、日常の健康管理や医療面での充実を図っている。これまでのなじみの医院への受診は家族の同行が基本ではあるが、同行出来ない場合は、職員が柔軟に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在事業所として、重度化した場合の対応や、終末期ケアは実施しておらず、そのことは、利用者及び家族へは、利用開始時に説明し理解、同意を得ている。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時に、利用者、家族に個人情報の取り扱いに関する説明を行い、同意を得ている。職員は常に利用者本位の目線に立ち、プライドやプライバシーを損ねることの無い対応を心がけている。記録の保管など、その取り扱いも適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、利用者が一番に考え、一人ひとりのペース、自己決定や自己選択が損なわれないよう配慮した対応に心がけ、見守りながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力量に応じて、食事の準備、配膳、下膳、茶碗拭きなどを職員と共に行っている。畑で収穫された野菜が食卓に上ることなど、会話が弾み、楽しく食事ができるよう支援している。また、外食に出かける機会も多く、利用者の楽しみ事の一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況に応じて、概ね週2～3回の入浴支援を行っているが、利用者の希望によっては、可能な限り柔軟に支援している。また、入浴の際は、利用者の気持ちや意向を尊重するなど、くつろいだ雰囲気作りに努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、日々の身体状況を見守りながら、一人ひとりの趣味や特技、できる事、できない事、得意な事を見極め、役割などの活動を通して充実感、達成感が持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出する機会は多く、職員は利用者一人ひとりのその日の希望に沿った散歩、買い物、地域行事への参加等の支援を行っている。また、年間計画を立てた、遠方へのドライブ等、家族、地域ボランティアと共の外出支援も多く行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は概ね午後7時30分より午前7時頃まで、防犯上の理由で施錠しているが、日中は無施錠である。ベランダも開錠し、自由に出入り出来るよう見守りながらの支援を行っている。職員は鍵をかけない事の大切さを理解し、実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡網、防災対策マニュアルを作成し、年2回の非難訓練を実施している。運営推進会議を活かし、積極的に地域住民の参加、協力を得られる取り組みも行っている。また、緊急時自動通報システムも設置しており、災害に備えた備品等も準備している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はインターネットを活用し、各ユニットごとに立て、個々の状況、状態に合わせてながら臨機応変に対応している。食事や水分量は毎日記録に残し、全職員で情報を共有している。体重管理も適切に実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、ゆったりとしており、それぞれが思い思いに過ごせる居場所を確保している。季節感のある飾り付けや、家庭的な雰囲気醸し出す手作り品を掲示し、落ち着いた居場所となっている。居間から出入りできるベランダは眺望も良く、日常的に季節を体感でき、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活上における個室の意味を理解し、細やかな居室環境作りに配慮している。居室には、利用者の使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真や花、趣味の手作り品などを飾り、その人らしく居心地のよい居室となっている。		

※  は、重点項目。